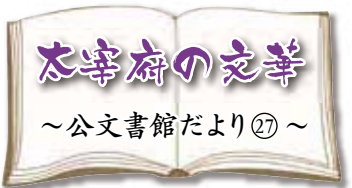


# 民俗学研究者・佐々木滋寛の水城村顕彰

佐々木滋寛は、博多区千代にある松源寺の住職ですが（第10代）、郷土史家としても知られる人です。民俗学者・柳田国男に影響を受け、地元に伝わる年中行事や伝説、芸能などを精力的に研究しました。松源寺の近くには、荻萱道心と石堂丸親子の悲話を伝える「石堂地藏」があります。佐々木滋寛は「荻萱文庫」を創設し、昭和27（1952）年8月には松源寺において、古今の書物や錦絵、玩具などを集めた「加藤繁氏誕生八百廿年記念 荻萱石堂丸展覧会」を開いています。

太宰府にも荻萱伝説に因む「荻萱の関跡」があります。その縁かは分かりませんが、実は滋寛住職、戦後の水城村での史跡顕彰に関わっています。水城村の文化財行政に関する文書（文化財（元水城村）関係綴）を見ると、彼が村の史蹟係に宛てたはがきが残っています。急な訪問に対する詫びと、好天の中ゆっくり史跡見物ができたことが書かれ、自作の絵はがきを持ち込んだのか「戒壇院の絵はがきもなにとぞよろしく」との依頼もしています（昭和27年2月12日付）。他に通古賀の御田良清に宛てて「檜垣姫」のオリジナル絵はがきを送り、檜垣姫の古蹟をぜひ顕彰してほしい、



なにかと加勢します、と書いています（同年1月28日付）。ところで御田は太宰府天満宮の神職さんですが、昭和25年から同28年、通古賀の王城神社で宮司を務める間、水城村役場の書記として公民館などの事務を担当しました。この年はちょうど太宰府天満宮1050年大祭が開催されており、それに対する「加勢」の気持ちもあつたかもしれません。

昭和25年5月30日文化財保護法が公布され、翌26年2月には九州大学・福岡県・文部省が「太宰府の都制と文化調査会」を設置、水城村役場内にも史蹟委員会が発足します。6月には大宰府陞保存委員会が作られ、27年2月にはそれを再編する形で筑紫路（水城村）史蹟保存顕彰会が出来ました。顕彰会に関する文書綴りの中に「水城村史跡名勝略図／史跡名勝所在地及由緒」があり、佐々木滋寛による史蹟解説の原稿が付されていることから、彼が水城村の史跡顕彰についてある程度の役割を果たしていたことがわかります。

研究者としての滋寛は、描写が冗長とならないよう常に心掛けていたようで、彼の記した解説はたいへん簡潔です。